

授業科目 聴覚障害Ⅱ 演習

【担当教員名】 中野雄一	対象学年	1 2 ③ 4	対象学科	理学・作業・言語・栄養・体育・社会・看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修/選択
	単位数	1	時間数	15

【＜概要＞又は＜一般目標：GIO＞】

聴覚障害を的確に評価するための各種聴力（覚）検査法を実施に即して習得可能な演習である。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：SBO＞】

学習記録でもある検査記録を整理し、理解して、学んだ内容を説明できるようにまとめておく。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	聴力検査にあたって 準備と説明 聴力検査の実際 オージオメータ、オージオグラム、閾値の測定法		講義 実技
2	純音聴力検査 1) 気導聴力検査 マスクング、検査法の実際		講義、演習
3	2) 骨導聴力検査 骨導聴力、伝音難聴と骨導聴力		講義、演習
4	語音聴力検査 スピーチオージオグラム、検査法の実際		講義、演習
5	自記オージオメータ 自記オージオメータ、検査法の実際		講義、演習
6	閾値上検査 SISIテストとABLBテスト、検査法の実際		講義、演習
7	インピーダンス・オージオメトリー ティンパノメトリー、検査法の実際		講義、演習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	聴覚検査の実際	日本聴覚医学会編	南山堂	2001年、3,400円
参考書				
その他の資料	必要の都度配布する			

【評価方法】 出席・演習の態度と定期試験から評価する。	【履修上の留意点】
--------------------------------	-----------